

次期二戸市総合計画策定に向けた
関係団体からの意見聴取
実施報告書

令和8年7月

二戸市総合政策課

— 目 次 —

関係団体からの意見聴取の概要	・ ・ ・ ・ ・	1
団体からの意見一覧		
1 総務部関係団体	・ ・ ・ ・ ・	2
2 市民部関係団体	・ ・ ・ ・ ・	4
3 健康福祉部関係団体	・ ・ ・ ・ ・	5
4 産業振興部関係団体	・ ・ ・ ・ ・	12
5 建設整備部関係団体	・ ・ ・ ・ ・	25
6 浄法寺総合支所関係団体	・ ・ ・ ・ ・	27
7 教育部関係団体	・ ・ ・ ・ ・	33

関係団体からの意見聴取の概要

1 目的

令和9年度を始期とする次期二戸市総合計画の策定にあたり、各分野における現状や課題を把握するとともに、施策の方向性の検討及び今後の連携・協働につなげるため、関係団体からの意見聴取を行った。

2 開催概要

各施策の推進にあたり協力いただいている団体など、各課等が所管する分野に関係する団体を対象に意見交換会等を実施し、以下の項目について聞き取りを行った。

実施にあたっては、対面による聴取を基本としつつ、書面での照会や複数団体との合同実施も可能とした。

【主な聞き取り項目】

- (1) およそ10年後に目指すまちの姿
- (2) ありたいまちの姿を実現するために壁（課題）になっていること
- (3) その壁を乗り越えるために、団体としてできること
- (4) 市に期待すること・市と連携してできること
- (5) その他、まちづくり全般に対する意見や提言

3 実施期間 令和8年4月～6月

4 実施団体数

総務部関係団体	5 団体	建設整備部関係団体	5 団体
市民部関係団体	1 団体	浄法寺総合支所関係団体	13 団体
健康福祉部関係団体	11 団体	教育部関係団体	6 団体
産業振興部関係団体	22 団体	計	63 団体

団体からの意見一覧

1 総務部関係団体

(1) 二戸市交通指導隊、母の会（5/18開催・9人参加）

【防災安全課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・若者が「二戸市」に誇りを持ち、住み続けたいと思える安全安心な環境づくり。 【目標】 小中学生の交通安全教室の受講回数 ⇒3回/年 ・高齢者がいつまでも自分らしく活躍し、心身ともに健康で自立できるまちづくり。 【目標】 高齢者が事故当事者となった割合 ⇒50%以下	・若者の流出により活気が減っている ・様々な活動の担い手・人材不足 ・少子高齢化 ・クマの出没	・交通ルール・マナー向上を図り、安全安心なまちづくりを行うとともに、交通安全活動を通じて若者や地域との交流を深め、地域の魅力を伝える。 ・地域の方々への「+αの挨拶」を習慣にし、高齢者が孤立せず社会とつながりを形成する。 ・外国人など外部人材の登用	・道路環境の整備（特に通学路） ・住民の健康づくり ・いこいの場所づくり ・魅力の発信・情報の周知 ・公共交通の充実	・九戸城周辺は、市でも力を入れているが、同時に子どもの通学路であるため、街灯の整備や狭い道路の拡幅など道路環境の整備に努めてほしい。

(2) 二戸市消防団（6/7開催・9人参加）

【防災安全課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
市民が安心して暮らせる街 ・消防団の組織の維持 ・消防団の装備・消防施設等の整備・更新・維持	○消防団の人材確保 R8.4.1現在で団員数689名。減少傾向が続いており、各地域の部では組織の維持が困難になっているところもある。 ○設備・装備の更新 これまででは消防車両を年に2、3台のペースで更新してきたが、物価高騰の影響により調達価格が高騰しているため、年1台更新可能かどうかという状況になっているが、消防力の維持のため、計画的に更新する必要がある。また、屯所について、老朽化しているものも多く、団員の活動環境を更新・整備が必要。	○消防団の処遇改善、負担軽減を行うことで、消防団への入団促進と退団の抑制を図る。 ○関連して、屯所の環境整備や装備品の充実・更新を計画的に行っていく。 ○地域の自主防災組織等の行う防災訓練等に積極的に参加し、地域との連携を深めるとともに、消防団の活動の必要性等の理解を深める。	○団員の処遇改善に係る予算措置（報酬、各分団・部への活動費助成） ○装備品や設備の整備、維持管理に係る予算措置（消防車両の更新、屯所等の維持管理・更新） ○市の広報や各種イベント等で消防団のPRを行うなど広報の協力。 ○市役所職員による分団（部）の結成（平日日中の出動隊の確保）	○団員にも独身者が増えているため、市全体として、結婚支援等が必要。 ○人口流出を防ぐために、働く場の確保や、子育て支援等を他の自治体に先んじて行う必要がある。

(3) 二戸市防犯連合会、防犯隊 (6/8開催・9人参加)

【防災安全課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
子どもから高齢者まで、誰もが安全を実感できる「地域防犯のまち」 【目標】 犯罪率1.9%以下※ 人口1,000人当たり犯罪認知件数	・防犯団体の担い手不足 ・情報の孤立化 ・少子高齢化 ・地域を見守る目の減少	地域のつながりを通じて「気づき・支え合う防犯」コミュニティの醸成	・防犯カメラ・街灯の整備 ・地域安全の拠点となる場所づくり ・防犯情報が循環する仕組みとして市の公式LINEを活用し、防犯・クマ情報の周知ページの作成 ・防犯活動における助成金	防犯協会に限ったことではないが、各団体の高齢化・後継者不足により、活動ができなくなっているため、各団体のあり方について検討・見直しを図ってほしい。

2 市民部関係団体

(1) 二戸市環境衛生組合 (6/4開催・11人参加)

【環境推進課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・他方から人が訪れるまち	・人口減少、他所から人を二戸に向かわせることが必要	・地域環境の美化	・市は以前から「宝さがし」に取り組んでいるが、力を入れているようには映らない。（折爪・相馬大作など） ・手つかずの宝も多いと思う。もっと予算を投入し、力を入れてはどうか。	・大々的な活動ではなく、まずは10～20人を目標にするなど、少しずつで構わないので、地域の魅力を発信し人を呼べるようにスタートしてもらいたい。
・環境にやさしいまち（循環型社会の形成、ごみ減量に取り組むまち）	・とくに県市町村界近くの地域において、集積所に地域外からごみを捨てに来る者、駐車帯へのポイ捨て、法面への不法投棄が無くならない	・地域住民による道路周辺等の清掃活動（実施している） ・問題地域の監視（パトロール） ・環境保全の周知啓発	・不法投棄が多い場所にネットを張るなど、物理的な対策が必要と思う。 ・問題個所に監視カメラを設置するなど、悪質な行為や犯罪行為を取り締まる姿勢を見せてほしい。 ・市は、悪徳業者への指導啓発を特に行ってもらいたい。住民では難しい。	
目標とする指標 ・一人1日当たりごみ排出量の減 ⇒R7実績 847グラム ・市内ごみ集積場所周の減 ⇒R8当初 約1,490箇所				

3 健康福祉部関係団体

(1) 二戸市健康づくり推進協議会（4/24開催・11人参加）

【健康福祉企画課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること
◎転倒予防 ・転倒（フレイル）予防のための普及啓発 ・寝たきりや要介護状態を予防する対策の推進	[老人クラブ連合会（福祉団体）] ・人口減少により、会員数の減、交流機会の減などの影響がある。限られた人員で何ができるか考える必要がある。 [二戸市社会福祉協議会（福祉団体）] ・少子高齢化時代を迎えるにあたり、深く考え二戸市独自の活動が必要である。	[老人クラブ連合会（福祉団体）] ・老人クラブでは今年度、九戸城、天台寺を巡り、地域のことを学ぶ計画をしている。他から来た人たちに二戸の良いところを説明できるようにしたい。 [二戸市社会福祉協議会（福祉団体）] ・高齢者には自分たちが経験してきたことを次の世代に伝えようと話をしているが、そのためには当事者が元気でないといけない。高齢者の活動を促すような取組を行って行きたい。	[市食生活改善推進員協議会（健康づくり・食育団体）] ・転倒予防の筋力トレーニング事業は継続してほしい。事業に参加し、1クール終了後は自立してトレーニングルームが利用できる無料カードへの展開は非常に有意義である。 ・広報など周知方法について、今後、工夫し誰もが情報を得られるようにしてほしい。
◎健診受診率の向上 ・自らの健康状態の把握 ・自主的に健康づくりに取組む意識の醸成を図る。			[薬剤師会（医療団体）] ・健診・がん検診などに関する患者への働きかけを組織として取り組んでいきたい。
◎自殺予防 ・自殺を防ぐ社会的な取組みの推進及び地域住民一人ひとりが自殺対策の主役となり取組めるよう、こころの健康づくりの推進体制の充実	[保健委員協議会（健康づくり団体）] ・自殺の割合が高いこと。		[保健委員協議会（健康づくり団体）] ・自殺対策の取組みを行い、自殺の割合を改善し市のイメージを良い方向へ変えてほしい。
◎生活習慣病予防 ・バランス食、減塩、野菜摂取量の増加、運動、適量飲酒、禁煙などについて意識向上を図る。	[岩手県立二戸病院（医療機関）] ・二戸と釜石は人口減少が激しい地域である。医療を受ける人口は変化なく、医療を与える側が減少し医療機関の減少や機能が低下していく。	[岩手県立二戸病院（医療機関）] ・個々で横側を広げる仕事をしていく、あるいは異なる部分の協体制を強化していく必要がある。医療側としては、特殊な特性が必要になってくる。	[岩手県栄養士会県北地区会（健康づくり団体）] ・病院で診断を受けた者への食事療養を行っている。健康づくりに関して、栄養士間での情報交換や相乗効果が生まれるような取組を行っていきたい。

◎ その他意見、全体	[市民間保育施設等連絡協議会（子育て支援団体）] ・健康づくり計画の推進に向けて、父母、祖父母など家族単位の関わりが出てくると思う。未就学児を入口にして、父母、祖父母などへアプローチができれば横断的な取組ができると思われる。 [保健委員協議会（健康づくり団体）] ・二戸の宝はいいものがある。食は「雑穀」がある。品質は一番だと思っているので広めてほしい。癒しは「金田一温泉」がある。テレビなどで発信してほしい。 [二戸市スポーツ協会（スポーツ団体）] ・健康づくり都市宣言について「転倒予防」「自殺予防」「生活習慣病予防」とネガティブな言葉が多いと感じる。ネガティブな言葉で相手が取組を行う意識になるか疑問。相手にどう伝えるかが大事と感じる。ポジティブな言葉に変換する必要があるのではないか。 [民生児童委員協議会（福祉団体）] ・相馬大作について、他市町村から人を呼び寄せるには、金田一地区にある相馬大作の胸像、演舞場も重要と考える。その場所は、金田一地区の有志で草刈りなどの整備をしている、支援してほしい。
---------------	---

（２）傾聴ボランティアほほえみ（5/1開催・13人参加）

【健康福祉企画課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・病院の治療費を少なくできるように、年をとっても元気な高齢者を目指す。 ・学校とのつながりを持って成長を見守って行きたい。	・1人暮らしの世帯が多く、具合が悪くなっても気づかない。 ・子供が少なくなり、スクールガードや交通指導員の担い手もない。 ・気軽に集まれるカフェや、夜まで営業している食堂がない。古民家等の活用できないか。 ・子供の遊べる場所がない。(家ではゲームのみ) ・地域の空き家問題。 ・若い世代は子育てと仕事で忙しく、昔と違ってまわりが見えなくなっている様だが、ゆったりとした暮らしができないものか。(祖父母等の支援の有無)	・地域のことや、団体活動を頑張りたい。 ・ボランティア活動(運動、傾聴)を頑張っていきたい。	・1人暮らしのサポートの相談をしたら、市の保健師さんが2名来てくれ、病院入院までサポートしてくれて助かった。 ・市の厳しい財政状況を目に見える形であらわしてほしい。 ・子供の遊び場として、学校や幼稚園の広場の使用ができないか。	・商店街がなくなり、人との関わりがなくなっている。 ・お祭り等で、参加する(できる)人が減ってきている。(入れない方もいる) 皆が参加して、盛り上げられる機会が減ってきている。 ・二戸市外に出て用足しをするではなく、市外の集客が出来るような魅力あるまちづくりをしてほしい。(観光客含む) ・この5つの項目について、市議会議員の皆様にも意見を伺って確認したい。

（３）二戸歯科医師会（5/19開催・1人参加）

【健康福祉企画課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・収入安定し、安心して暮らせるまちづくりが必要。	・税収を増やすため働く場所を増やす。(そうすることにより若い夫婦増える。) ・働ける人口を増やす。健康老人を増やす。 ・第1次産業で稼げる方法を見いだす。	・医療職は今までどおり実行していく。	・盛り上げる人がいるとそれに協賛し行動する。行動する人が増えると変わる。 ・実施方法を今までと同様ではなく変えることを考える。 ・夢を持つ。	

(4) 二戸市保健委員協議会 (5/21開催・73人参加)

【健康福祉企画課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③市と連携してできること
・高齢者が元気に暮らせるまち ・子ども達が集まる場所 ・世代交流ができるまち ・小さいまちでもできる範囲内での事業を展開する ・思いやりのあるまち ・地域で助け合うまち ・魅力のあるまち ・高齢者が肩身の狭い思いをしないまち ・地域での見守り ・散歩出来るような場所、コース等があると良い ・街灯、滑り止めボックスが壊れていても直していないので、修理の依頼場所がはっきりわかるとよい ・高齢者の人達が外出する場所、機会があると良い ・いつまでも自分の足で健（検）診会場に行くことができる ・生活しやすいまち ・少しでも働ける老人でありたい。 ・健康できちんと生活していきたい。 ・家族、子や孫まで年を取っても一緒に暮らせるまち	・医療機関が少ない（選択肢がない）、交通機関が少ない ・高齢者のあつまり、男性が来ない。女性はくるが…、男性の参加を促す（男性の活用） ・生活面にお金をかけてほしい ・スポーツ（部活）はしない子、部活の親の負担が大きい ・自殺多い ・働くところがない→若者が出ていく ・若い人が結婚しない ・助け合う気持ちが薄れている ・高齢者の買い物について課題がある ・健康教室等に参加するための足がないので、声を掛け合って、車に乗せてあげたりする ・赤ちゃん、子どもが増えてほしい→そのために男女の出会いの機会がほしい ・1年間を通して楽しめる、集まれる機会があればよい ・健（検）診会場の減少 ・市のバスの利用が少ない（使い方がわからない） ・農地が不要 ・若い人がいない（自治会も活発にできない） ・街頭が消えて暗いので防犯的にもよくない ・道路の整備がされていない場所がある ・つどいの場が開催されても参加者が少ない、人数を増やしたいが、会場までの足が問題 ・年代関係なく話せる場がほしい ・結婚しない人が増えている ・一人暮らし老人が多い→救急車呼べなかった ・空き家が多い ・子どもがいない、老人ばかり…	・男性高齢者をふるい立たせるような事業（目的があるような事業） ・地域で区切って小さくやれば参加（教室）子どももある ・広報の記事に載せてほしい ・子どもも大人も参加できることがあったら良い ・町内会の活動を知る機会がほしい（広報など） ・何かあった時、手を差し伸べることができるよう研修会に参加する ・二戸のブランド何かつくる→会社できる→雇用につながるとうい ・空き家、空き田畑活用→若者の移住 ・タクシーと連携し、高齢者の買い物の手助けができるとうい ・散歩コースがあると良い ・バスの幹旋（スクールバス）環境整備 ・のりあいタクシーの整備 ・街をコンパクトにする？！シェアハウスなど ・健康教室の開催日時について再検討や開催側の熱意 ・結婚の支援 ・除雪の補助金 ・働く場所の確保 ・学校、医療機関の確保を継続する

(5) 二戸地区保護司会 (6/2開催・2人参加)

【福祉課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁(課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・保護司の充足による、更生保護の充実 ・一度つまづいた人でも「やり直せる」地域づくり	・保護司の担い手不足 ・制度の理解促進	・保護司候補者を後押しできるよう、職場等の理解を深めるための活動 ・更生保護の活動を広く知ってもらうこと	・令和7年12月の保護司法改正により、職場での配慮規程が新設されたことから、団体と一緒に制度の理解促進を図ってほしい	・UIターン推進の手段の一つとして、交通網の整備は必要ではないか ・都会で免許を取ったパーパードライバーの運転への支援(再受講など)

(6) カシオペア医療介護支援センター (6/4開催・4人参加)

【福祉課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁(課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・多職種連携による、地域包括ケアシステムの構築、推進	・一人の人に対する支援の幅が広がっており、支援者(医療、介護や障害福祉サービス)間の情報共有が必要となっている	・ICTを活用した地域包括ケアシステムの展開(アプリ、スレッド等の活用) ・医療、介護、障がいなどの事業者が情報を共有し、連携して支援するための体制づくりと、消防等、さらなる多職種連携の推進	・二戸地域レベルでの情報共有や、事業展開に要する有利な財源の確保に向け、二戸市が核となって動いてほしい	・近年、高齢者の「ヒアリングフレイル」が増え、聴力の衰えから外出をためらい、体力が落ちていく…という話を聞いている。市としても支援を検討できないか

(7) 二戸市民生委員児童委員協議会 ※民生委員への自由聞き取り (6/8～11開催・約40人参加)

【福祉課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁(課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・誰もが安心して生活できるまち ・犯罪のないまち	・人口減少、特に次世代の減 ・農業従事者の減少と休耕地の拡大	・民生委員として、行政や関係機関との中継ぎの役割を担う	・地場産業や農業従事者の後継者育成 ・企業誘致(生活が安定すれば犯罪も少なくなるのではないかと)	・犯罪の少ないまちであることをアピールしてはいかがか
・高齢者でも働きたい気持ちがある人が働けるまち	・福祉関係の仕事がたくさんあって、業務が大変ではないか?	・元気な人は遠くから応援することとし、元気のない人や外出しない人に声をかけ、訪問している ・活動の継続	・停電時でも安否確認ができるシステムの構築(携帯電話を持たない人でも使える)	・お元気見守りシステム(社協)いい! ・物価高騰はどうにかならないのか…高齢者の年金はさほど上がらないので、このままだと将来に不安がある

・市民と行政が協力して健康づくりを行うまち	・地域の「通いの場」利用者が減り、それに伴い閉鎖するという状況にあっても、対策が取られていない。社協と市の連携が薄いのではないか ・「健康づくり都市宣言」「にのへいき健康体操」はまだまだ周知不足	・住民のみならず福祉団体等とのつながりをもつこと ・個々の活動の向上のための研修	・欠員地区の解消 ・「にのへいき健康体操」のさらなる普及	・今回のような意見徴収はいい取り組み。差別や偏見を持たない人はいない。だからこそ官民連携が重要 ・厳しい財政状況であるから、補助金などの会計報告が妥当であるか判断を ・ふるさと納税について、実際の使途を住民に知らせることはできないか？「ホームページをご覧ください」は不親切。広報月1回の発行は支持。必要な情報提供をお願いしたい
-----------------------	--	---	---	---

(8) 二戸市社会福祉協議会 (6/9開催・4人参加)

【福祉課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・どんな人でも取り残さず 「ふ”だんの”く”らしが ”し”あわせ」なまち	・支援を必要とする人は「個人」から「世帯」（要介護者と障がい者の世帯 など）となり、支援内容も多様化 ・また、最近は世帯状況も変化しており、身寄りのない（または家族等が面倒を見ることができない）高齢者が増加 ・一方、事業者は担い手不足が顕著。今後人口が減るとサービス利用者も減る…事業者の存続も難しくなる…といった負の連鎖が容易に想像できる ・高齢者の地域活動について、参加者や活動規模など、市の支援（補助金）が要件を満たさない場合が多い。最近では健康教室の閉鎖などもあり、我々は閉鎖してからだと入り込むことができない。たとえ小さな活動でも介護予防、フレイル予防になっている	・相談体制の強化に向けた職員の資質向上 ・支援者間の連絡調整 ・サロン活動を通じたニーズの拾い上げ	・行政が持つネットワークを生かした、多職種連携体制の構築、推進 ・有料ボランティアの導入など、サービスや支援から「こぼれそう」な人を支えられる仕組みの検討や、サービスの維持、継続のための独自支援 ・地域包括ケアシステムにおける「第2層（旧中学校区）」の特徴を生かしつつ高齢者の社会参加推進に向けた事業の整理 ・介護予防活動団体補助金など、自主的な活動に対する補助金の見直し	・どんな世代でも通える子ども食堂を整備した地域があるが、ボランティアが見つからず、まだ開設できずにいる ・駅前地区にお店がほしい（サロン参加者より） ・空き家の活用法を検討してほしい。また、空き家バンクの積極的運用を…

(9) 二戸地区自立支援協議会（カシオペア障連、桂泉会つくし相談支援事業所）（6/12開催・7人参加）

【福祉課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・どんな人でも取り残さず 「ふだんのくらしが しあわせ」なまち	・人手不足と従事者の高齢化…子育て世代は夜勤や休日出勤が厳しく、急な有給もとりにくいなどの理由から、定着しない ・北桜高校には福祉科があり、卒業までに介護福祉士の資格が取れ、高卒で福祉系に就職した人もいたが、現在は法改正でそれができない→進学しなければならぬ… ・福祉分野に限らず、若者の流出が止まらず、あらゆる分野で人手不足が続いている ・支援を必要とする人は「個人」から「世帯」（要介護者と障がい者の世帯 など）となり、支援内容も多様化	・人手不足の解消に向けては各法人が苦労しながらも知恵を絞り確保策を講じている ・今後は、人手不足などにより、支援する人の数も限られてくる可能性もあるため、高齢者や障がい、権利擁護など、相談機能の集約化も想定される	・若い人が二戸を出るのは仕方ない！ととらえ、戻っても働けると思える環境づくりが必要 ・就学金の減免制度を見直し（一度市内企業に就職して、辞めた場合でも、市内で転職したら減免対象のまま…とか） ・高校以上の教育機関の誘致。産業技術短大の福祉分野導入検討。北星支援学校との連携 ・行政が持つネットワークを生かした、多職種連携体制の構築、推進	・「足の確保」について。事業所の利用者（通所）の送迎に人員を要しており、公共交通（コミバス、デマンドタクシー）の併用など、資源の有効活用も検討してはどうか ・UIターンの推進にあたっては、教育基盤の整備のほか、観光や移住定住政策なども並行して行うべき。「市内でアユ釣りができる」とか、普段住んでいると気づかない魅力もあるようだ ・通信環境の整備も有効だと思う。田舎に住んでリモートワークをしたい人を誘致したり… ・子育て世代への支援も、思い切って他市町村の施策を「マネ」てもいいぐらいでは？暮らしたいと思う施策が複数あれば、選ばれるまちになっていくのではないかな ・適応教室「おあしす」の場所は小中学校に近く、移転の検討が必要だと思う。「応援歌練習ができない」と不登校になっている子が、応援歌練習を聞きながら勉強できるかな…？ ・市のホームページが見づらい。デザイン含め見直しができないかな？

(10) 二戸市子ども・子育て会議（6/30開催・17人参加）

【こども家庭課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・今もこれからも幸せに過ごせるまち ・楽しいことであふれるまち		・物事をポジティブに捉える環境づくり		
・子ども、子育て世帯に優しいまち	・子どもを大事にしている、見守っている雰囲気・サービスがないように見える ・クマによりさまざまな活動に制限が出ている ・進学先の選択肢がない、少ない		・年長～小学1年の接続がスムーズに行く、二戸のオリジナルがほしい ・室内で子どもが遊びまわられる施設が欲しい ・進学先として選ばれる教育機関がほしい	・意見を目に見える形で反映させてほしい、政策化してほしい

・住み続けたい、住んでみたいと思えるまち ・誇りを持てる、好きと言えるまち	・働く場所がない ・都市部との賃金格差により保育士の新卒の採用が困難 ・医療機関が少ないと感じる ・自分の住んでる町なのに、「嫌い」に見える ・まちを散策しづらい、空き店舗が多い、車社会の割に車を止められるところが少ない	・（教育機関として）子どもに二戸の良さを認知してもらう取り組みを推進 ・（それぞれの家庭においても）進学で出て行っても戻ってきたいと思える場所・魅力づくり ・（こども食堂の運営を通じて）地元の子ども達は元気だ、ということをみんなに知ってもらう	・働き手が増えるような支援をしてほしい ・働く場、人を増やすために企業誘致に取り組んでほしい ・医療機関をもっと増やしてほしい ・（空き家などを活用した）住居の支援 ・金銭的な支援 ・情報発信を頑張してほしい	・成人式などでもっと二戸のアピールをしてほしい ・広域でのサービス構築を検討してもよいのではないか ・進学、就職で出て行ったとしても、戻ってきてもらえるように取り組んでほしい
・政策に特色のあるまち			・人口流出に歯止めをかける政策を打ち出してほしい ・ネットで全てが比較される時代のため、二戸のメリットが見える形で発信してほしい ・子ども・子育て世帯に重点をおいた政策を進めてほしい ・人口減少に歯止めをかけられる具体的な目標を掲げ、それに向かって突き進んでほしい ・国・県の先を行くような、社会変革をもたらすような影響力がある政策を打ち出してほしい	
・人と人との繋がりがあ るまち		・子どもの活動を中心に地域、高齢者を元気にしたい ・ボランティア登録～活動を通じた身近な地域課題の解決	・頑張っている人にサポートできるような政策を進めてほしい	・新規の事業展開は大変だと思うので、行政主導も大事だが、地域・民間で今あるもの、取り組んでいることを盛り上げていくような取組とそれを知らせる情報発信に取り組んでもらいたい

4 産業振興部関係団体

(1) 金田一温泉旅館組合 (6/4開催)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・金田一温泉を皆から憧れられる温泉地にしたい。 ・地区全体を上手に使いながら、ぜひ行ってみたいと思われるようにしたい。 ・きたぐにやゆきはなカフェ等のいい店があるので、さらにいい店を増やしたい。 ・旅館が少なくなってきたので、旅館を続けてもらいたい。	・環境整備が難しくなっている。草刈り等は高齢化しているためやれる人が少ない。 ・五日市洋氏や向井氏が頑張っている。何とかしたいとは思っている。	・今までもずっと言ってきたことだが、入湯税の使い方を検討していただきたい。きちんと温泉に落とす仕組みを作してほしい。宿泊税についても検討していただきたい。1人から100円取ったとしても金田一温泉で約2～3万人は来ていると思うので、200～300万円程度にはなるのではないかな。 ・いろいろなことに出してくれる人が少なくなっているが、何とか協力して頑張っている。	・入湯税の使い方を検討していただきたい。きちんと温泉に落とす仕組みを作してほしい。宿泊税についても検討していただきたい。 ・ボランティア等のイベントを手伝ってくれる人の導入を検討できないか。承継問題について、何かよい方法がないか一緒に検討していただきたい。	・飛驒の事務局長から「観光もまちづくりだ」との言葉を聞いてきた。しっかりした街づくりを進めれば、人はそこに集まる。

(2) 二戸市商工会 (6/5開催)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他
・今後の宿泊は、九戸城や座敷わらしを生かし観光業で誘客をはかれるようにしたい。宿泊業界、カダルテラス・観光ツーリズム協会と一緒に考え、インバウンドを含めた外貨を落としてもらえるような二戸市にしたい。 ・人口減でも稼げる二戸市を目指す。駅前には二戸版シリコンバレーとするのがよい。IT関係を優遇して誘致することで今ある産業が効率よくなる。そこに情報関係・IT関係の専門学校を持ってくる。そうすると、学生が欲しいから企業が来る。そこの下請けができる。 ・観光面は、箱物はもう増やさず、今あるも天台寺・九戸城・カダルテラス等を利用して盛り上げ、また、ふるさと納税を推進し、関係人口を増やし続ける二戸市を目指す。 ・健康都市宣言をしているので高齢者にも手厚いまちや、いろいろな発信や支援で女性がもっと活躍できるまちを目指す。 ・商業が振興して人が集まってくるような二戸市を目指す。 ・若者が地元就職し、実家から通勤でき、賑わう二戸市を目指す。	・宿泊業としては浄法寺の風車の関係があり、現状はそれほど悪くないが、いつまでも続くものではない。 ・昨今の物価高騰、特に油の高騰に困っている。 ・最近塩ビ管や接着剤などの現場の材料が手に入りにくい。また、新しいことをやろうとしても従業員の確保が困難。 ・塩ビ管関係、シンナーが不足している。 ・公共工事の仕事が最近は無くなっていると感じる。 ・R7年度の公共工事の発注について、平準化がなかなかうまくいっていないようだ。秋以降の発注が少なかったと感じている。 ・自分の店の固定客だが、昔に比べると購買意欲も低くなっているようだ。	・企業が少なくなってきた中で生き残る流れとすれば、観光を1人でも10人でも増やしていくことが大事。住民は減っていくので、関係人口をいかに確保できるか。二戸市は大きなアドバンテージがあって、新幹線とか高速とかの交通インフラは、沿岸に比べれば格段に恵まれているので、それらを活用しながら関係人口増を目指していく。 ・ここに住んでいる我々がもう何やってダメだみたいなことで、心まで過疎化してはいけない。 ・YouTube等を活用し、オンラインでなくても売れるものを考える(樋口金物機構の例を参考に)。 ・浄法寺の天台寺、九戸城、カダルテラス、金田一温泉などの素材はあるが、観光ではなかなか人を呼べないという部分について、どう付加価値をつけていくのかを、自分たちも考えながら学んでいき、観光を盛り上げていきたい。	・市役所は仕事をやりすぎ。各担当者は処理することで終わっていて力を発揮できないでいる。ボスはたくさんいるが、リーダーがほぼいない。 ・電気・水道補助はあるが燃料費についてはなく、現状、燃料高騰しているので検討していたと助かる。 ・国税の廃止を希望している。議員には消費税の廃止等の意見書採択等をしていただきたい。また、地方コイン(信用の創造)等を検討してみてもどうか？ ・子供をたくさん呼ぶようなイベントをやっていたきたい。 ・「中小・小規模企業振興条例」の制定について8年以上お願いし続けている。他市町村と比較しても二戸市はもはや最後の法である。ぜひとも策定していただきたい。 ・議員や市役所職員には力強い熱意を持って、人口だけとか、予算だけとかにとらわれなくて、どうやって逆転していくか、戦略的に進めていただきたい。 ・市内業者の保護というよりも、競争力のある業者を育成していくよう努めてほしい。	・二戸市内ではゴミ袋が買いためられ、不足し始めている。

(3) 二戸職業訓練協会 (6/5開催)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・多様な人材が活躍している。 ・就労満足度の高い職場がある。 ・UIターン人材が増加している。 ・地域を誇れるまち。 ・働きたいと思える場所、住みたいと思うまち、帰ってきたいと思うまち。	・人口減少。 ・労働力不足。 ・高齢化。 ・都市部との労働条件格差。 ・団体運営のコスト上昇。 ・施設の老朽化。	1 訓練協会として ・認定職業訓練の実施で技能・技術の向上を図る。 ・求職者訓練の実施で地域への人材供給を図る。 ・建築関連ネットワークの活用。 ・高い技術を持った建築人材の育成。 2 雇用開発協会として ・求職者と事業のマッチング機会の提供。 ・各学校へのアプローチ。 ・企業への採用支援。 ・移住定住に関する取り組み支援。	・協会の取組みに対する財政的支援。 ・いろいろな団体の選択と集中。 ・市役所の課を横断した取り組みの推進。 ・産業技術短大の誘致。	・高等技術専門学校では設計・施工管理を学ぶ。産技短では建築大工の技術を学べるようになればいい。他にITや一般製造業の技術を学ぶ学科があればよい。山形県では産技短と専門学校が並んで立っていて、補完、連携している。 ・働く場、雇用の確保。 ・進学が普通の時代で、学生が一度外に出ていくことは否定できない。人が戻ってくるようなきっかけ、特徴のある高等教育があればよい。 ・当協会を含め、市内にも様々な団体がある。それぞれ建物の老朽化は進んでいるので、どこかに集約などしてもいいのでは。

(4) 二戸市誘致企業等連絡協議会 (6/8開催、及び役員へのメール聞き取り)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
【対面開催】 ・稼げる企業、働く場所がある。 ・住む場所がある。	・新規事業、事業拡大をしたくても人材不足のためできない。 ・社員を採用しても物件が少なかったり家賃が高かったりと、社員が住みにくい。	・市内で事業を継続すること。	・地場企業、誘致企業間の横の連携による相乗効果、新陳代謝。 ・事業を継続していくことでの税収の確保、向上。 ・適度なトップダウン。	・二戸の宝は必要であるが、様々な事業において仕分けは必要と考える。 ・一方で、様々な事業で仕分けをした結果、人がいなくなってしまったのは元も子もない。 ・伝統があるとしても高く買ってもらえなければ。 ・企業における採用もそうだが、人を絞ってしまうと人は来なくなってしまふ ・先日の「住みやすい県」1位になったことを活用してもよいのでは。 ・二戸市は盛岡や八戸とは状況も異なる、そのままモデルにはできないのでは。

【SWS東日本(株)二戸工場】 若者が地元企業へ就職し、地元が活性化すること (目標) ・受注量の維持 (又は増産) ・従業員数の維持 (又は増員)	・若者の定着不足 ・地元志向の低さ	働きがいのある職場や賃金、福利厚生 の改善と企業PRの強化で魅力ある企業 風土づくり	・中学校、高校へ出前講座 ・工場見学の機会増加 ・行政主催の工場見学の他、春休みを利用 しての高校生の個別工場見学推進 ・誘致企業相互、他企業の見学会	周辺町村（青森県含む）からの通勤経路の 整備、定住であれば住宅地の整備で二戸市 へ人が集まる環境整備をすることで地元企 業への就職者も確保できるかと思います。
【二戸セイコー株式会社】 ・人口減少下でも持続可能な「働く場」と 「暮らし」が両立する 地域 → 人口減少を前提としつつ、雇用と生活基 盤の双方を守る、現実的な将来像 ・若年層の定着率向上 → 進学・就職による流出を抑え、地域内で の人材循環を生むことが最重要 ・安定した就業機会の維持 → 雇用の“数”だけでなく“質（安定性（収 入）・継続性（長く働ける）・スキルが身に つく・企業の継続性）”を重視 ・地域産業の付加価値向上 → 人口減少による量の縮小を「質の向上」 で補う戦略 ・空き家・空き施設が有効に活用されている	・労働力不足の深刻化 → 生産年齢人口の減少により、事業継続 そのものが難しくなるリスク ・財政制約の強まり → 税収減により行政側の支援余力も縮小 していく悪循環 ・若者流出と後継者不足 → 地域に残る動機や魅力が不足し、継承 が途絶える構造。雇用は量的に不足して いるのではなく、賃金・安定性・将来性 といった質の課題により定着が進んでい ないことが統計的にも指摘されている 為、雇用の質の確保が重要である。 ・産業競争力の低下 → 価格競争・人材不足により収益力が弱 まり投資余力が低下 ・空き家・空き施設の増加 → 地域の活力低下と資産の未活用が同時 に進行	・DX・自動化による省人化 → 人手不足を補い、生産性を維持・向 上させる基盤づくり ・教育機関との連携 → 地元人材の育成と早期接点づくりによ る定着促進 ・多能工化と技能継承 → 少人数でも現場が回る体制を構築 し、技術断絶を防ぐ ・地域資源を活かした商品開発 → 食・文化・自然などの資源を“稼げる 価値”へ転換 ・空き施設の活用による事業創出 → 遊休資産を活かし、新たな価値・雇 用を生み出す	・設備投資・DX推進に対する支援制度 → 中小企業が生産性向上に踏み出すため の後押し ・産学官連携の強化 → 人材育成と産業振興を一体で進める仕 組みづくり ※産業技術短大 誘致 ・産業横断の地域ブランド戦略 → 農業・製造・観光を一体で売り出す仕 組みづくり ・人材確保支援（移住・UIターン施策） → 企業単独では難しい人口流入施策の強 化 ・交通・デジタルインフラ整備 → 働きやすさ・住みやすさを支える基盤 の強化	・「量から質」への転換 → 人口増加を前提とせず、密度の高い地 域経済を目指す ・地域資源の高付加価値化 → 外に売れる“強み”を明確にし、収益力 を高める ※ふるさと納税の魅力活用 ・産業と福祉の統合的な施策展開 → 働くことを生きがいと捉え、高齢化社 会にも対応

【㈱二戸食品】 ・農業振興の構築を進める（若い人材での農業法人の増加支援） ・農業法人を3社立ち上げ ・食産業企業の倍増 ・ショッピングセンター、産直、家族（子供）が一日過ごせるエリアの構築 目標 ・市内で楽しく過ごせるエリア完成 ・外部からの集客を2倍にする ・観光巡回バスの活用を更に充実させて集客を2倍にする。 目標 ・季節によって、集会コースを変更する ・観光地点在を線で結ぶ	・農業に魅力を感じない ・食品会社は加工原料が地元から調達できない ・市内に賑わいを取り出し、その見返りとして金銭的な部分に貢献する。このことが皆無で他の地域に流れて行っている。 ・観光地が点在していて、もっと他の観光地も見たいが移動時間が長く魅力がなくなる ・各地点に説明看板（QRコードでサイト誘導）を設置する	・食品会社として、加工原料を決定して購入を進める - 子供家族が楽しめる遊具施設、ショッピング、食事処が必要 ・観光地に足を運びたいと思う顧客を多くする（地元産の御馳走があるとか）	・業振興の方針を柔軟に変更を行い食産業を推進する ・農業とそれに係る企業誘致を進めてほしい ・集客施設に伴って宿泊施設が必要ではないでしょうか ・どこの観光地行けばお土産やら食事が楽しめるかがない（体験ツアーだけでは物足りない） ・FreeWifiを整備し、九戸場跡地から天神橋あたりまでカバーして欲しい。	・外部有識者を入れながら又、市職員も知識向上させて、新たな発想で取組んでいただきたい ・他に人材が流失しないようなことをすべき ・道路などの整備も震災に対しては有効と考えますが、それ以前に産業振興をどのように配置していくかなのでは？
---	---	--	---	--

(5) 二戸市観光ツーリズム協会 (6/9開催)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・九戸城などは年間6,000人も来ているが、お土産を売っておらず、全く市にお金が落ちていない。伸びしろはたくさんあるはずなので、この辺りを改善できているようにしたい。 ・カシオペア広域やそれ以上(久慈・八戸等)につながりを持って観光等に取り組むまち。起点になる所一つに力を注ぎ、そこを中心に循環させる。 ・観光は関係人口増につなげることができるものなので、観光を中心にまちづくりをする。 ・青森県を含めた広域での観光に取り組み、それぞれがそれぞれをほめあって、お互いに人を流しながら活性化するまち。	・一番は足(移動)が問題。 ・市民に関心を持ってもらえないことが、いろいろな壁につながっている。何か関心を持ってもらえるものが必要。カーリングも室はお金が結構二戸市に落ちている。しかしそれを知らない人たちは反対をし、意識がこちらに向かっている。 ・人を連れてきてもお金を落としてもらうところがない。店がない、宿泊するところがない。九戸城に自動販売機があるだけでもまったく違うと思う。裁判所跡地をで御城印等を販売するなど、うまくまちづくりする必要がある。 ・九戸城、金田一温泉、天台寺の3地区それぞれがそれぞれをつなげていく意思が希薄である。本人たちの意識づけが足りていない。一人一人がもう少しだけ頑張ればプラスとして現れる。	・二戸市の強みを伸ばしていく。新幹線が一番の強みだと思う。近隣広域(久慈、青森等)とも手を携えていかなければならない。 ・今あるもの(新幹線、南部美人等)をどう使っていくかを考えることが大切。 ・日本遺産ツーリズムのほかにクラフトツーリズムを実施したいと考えている。 ・観光ツーリズム協会でのバスツアーを検討している。	・地域おこし協力隊や移住してきた人など、二戸市出身じゃない方からも話を聞いてほしい。 ・市内の観光に携わる人材が集う場を提供していただけないか？本来は観光ツーリズム協会の仕事かもしれないが。 ・観光資源セミナー等の実施。 ・人口減少はもう分かりきっているので、削減できるところを削減すると共に、人やお金を増やす努力をしなければならない。	・滴生舎は本物であり、今までの運営方針がよかった。 ・みどりの窓口について、今年度も4市町村で運営できないか。

(6) 東日本旅客鉄道 (6/9開催)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・鉄道を利用されるお客さまの増加による交流人口の増加。 【目標】 ・新幹線駅別乗車人数の増加(コロナ禍前水準[最大787人]への回復)。 ・定期外利用者(観光・ビジネス・通院や買い物等の普段使い)の増加。 ・着地・発地それぞれの利用者の増加。 ※参考 2024年度乗車人員 定期外：343人、定期：376人 計：719人 (前年比101.4%)	・二戸市・岩手県北エリアを目的地とした観光流動の創出。 ・二戸市・岩手県北エリアから出発する観光流動の創出。 ・ビジネス需要の創出。	・重点共創エリア指定時等の集中的な宣伝展開による二戸市・県北エリアの魅力発信。 ・首都圏や各方面に向けた宣伝展開による旅行需要の喚起。 ・需要に応じた臨時列車の設定。	・二戸市観光ツーリズム協会や周辺市町村とも連携した観光地の魅力発信。 ・企業誘致や産業開発等による交流人口の増加。	・二戸市単独ではなく岩手県や青森県南含めた周辺市町村との連携強化。

(7) J Rバス東北二戸営業所、I G Rいわて銀河鉄道 (6/10開催)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
【JRバス東北(株)二戸営業所】 ・高齢者・学生・通勤者が安心して移動できる公共交通ネットワークが維持されている。 ・主要施設(病院・学校・商業施設・公共施設)へのアクセスが確保され、移動困難者が減少している。 ・観光地への交通手段が整備され、地域内外の交流人口が増加している。 ・公共交通の利用者数が現状より増加し、地域の移動が持続可能な状態になっている。	・人口減少による利用者数の減少。 ・運転士の高齢化・人材確保の難しさ。 ・路線維持に必要な採算性の確保が困難。 ・自家用車依存の高まりによる公共交通の利用減。	・利用実態に応じたダイヤ見直しや効率的な運行の検討。 ・高齢者・学生向けの利用促進施策の提案。 ・観光ルートの造成や周遊バスの企画。 ・運転士確保に向けた働き方改善や研修制度の充実、外国人の採用。 ・キャッシュレス決済やデジタル乗車券の導入検討。	・公共交通維持に向けた補助制度の継続・拡充。 ・観光施策と連動した交通アクセス改善。 ・運転士確保に向けた地域ぐるみの支援や補助(住居支援・移住促進など)。 ・公共交通の利用促進キャンペーンの共同実施。	・「移動の確保」は地域の生活基盤であり、公共交通の維持はまちづくりの根幹。 ・公共交通を「利用者だけの問題」ではなく「地域全体の資産」として捉える視点が必要。
【IGRいわて銀河鉄道(株)】 ○老若男女問わず自由に移動ができる ○公共交通機関として、住民、観光客、出張者、通勤・通学に使ってもらえる環境の維持	○移動方法が自家用車に限定されている ○列車運行数の持続 ○スタッフが高齢化しているだけでなく、新規採用が難しいため、駅の窓口営業の持続 ○乗務員の確保	○パークアンドライドの促進 ○定期利用者への駐車料金割引 ○通院客を想定した医療ライン ○企画きっぷの開発 ○障害者手帳等の各種割引 ○便利な運行のためのダイヤ改正 ○SNS等を活用したPR	○にぎわい創出 ・着地型ツアーの造成 ・魅力的なコンテンツの造成	○公共交通＝1社だけで維持は不可・連携必要

(8) トヨタレンタリース岩手二戸駅新幹線口店 (6/15開催)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・区画整理事業の早期解決。 ・イベント興行。 ・人の集う場所がない。 ・土地の有効活用。 ・雇用拡大。	・何十年も進まないことが不満で二戸を離れる住民も多い。 ・お年寄り向けが多く、若者主体のイベントがない。 ・スーパーなど駐車場で車の前で立ち話ししている。 ・空き家など人のいなくなった土地が増えると熊被害拡大。 ・働く場所がなく関東圏に行く若者多数。		・お客様など当時からの住民の思いや声を聴いております。人生を終える前にその光景を見せてあげたい！！ ・南部事変など若者が楽しめるイベントへの支援（音楽業界に精通する方がいらっしやいます）、マラソン大会の実施 ・マックやかっぱ寿司などチェーン店の誘致。 ・キャンプ場の整備、家族で集える新たな公園の整備。 ・大型ショッピングモールの誘致。雇用も定住、移住も一気に解決。	

(9) ラビットレンタカー (6/15開催・1人参加)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・二戸市に来なければ体験できない特別な事(イベント、宿泊、食事)からファンを増やし、そこから住んで就業できて安心して子育て出来る環境を整えて少子高齢化に歯止めをかけて活気がある二戸市を期待したい	・宿泊施設が少ない、駅から遠い ・二戸市の県内、県外、国外のPRが足りない ・工業団地への企業の誘致 ・スポーツ大会、文化系(合唱、吹奏楽、神楽など)の大会の二戸誘致	・滞在体験型ツアーの企画 ・各団体へのイベントの発案、企画、実行 ・二戸市の観光名所、文化、衣食住に関わる色々な情報を定期的にyoutubeの動画を配信する	・イベントなど民間団体に丸投げではなく、二戸市職員も一緒に団体の一員として企画立案の立ち上げメンバーとして発足し、継続的にイベントを育てて大きくしていくように観光客を呼び込んで欲しい ・周遊交通(バス・レンタカー)の利便性向上	・二戸市に来てもらう理由(観光、企業、移住)を県内、県外、国外へアピールする場に営業して行かなければ待っていても人は来ない

(10) 福岡高校1年生カシオペア講座地域経済コース (6/18開催・約20人参加)

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・子どもと大人、高齢者の人口バランスが良ければいい ・遊ぶ場所があればいい(映画館)	・子どもと大人が遊ぶところがない			・遊ぶところが欲しい(ゲームセンター)

(11) 二戸市特産品開発推進協議会（会員に対するメール聞き取り）

【商工観光流通課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
【㈱カダルミライ】 ・訪れたい、また訪れたい観光を主体としたまちづくり	・目玉となる観光地がない ・観光整備に対する資金、人材不足	・企画案の作成	・交通網の整備 ・整備に対する市の資金援助 ・金田一温泉地域においては、入湯税の減額、撤廃もしくは目的を地域に活用できるように変更する仕組みづくり	・行政の人的及び資金の全面協力必要
【㈱あべはんグループ】 ・盛岡市、八戸市の中間に位置する地域特性を活かし、「選ばれる地域」となること。管外からの転入促進	・住宅の確保が困難。市内賃貸住宅は供給数が限られており、家賃も若年層にとっては負担感がある。人材流入・定着の擁壁になっていると感じる。	・社宅の整備や住宅手当の支給、住宅の借り上げ	・市内企業に勤務する人が一定の条件のもとで入居できる共同住宅の整備や既存物件の借り上げなど、官民連携による住宅確保支援策の検討が有効と考える。家賃は入居企業が一部負担することで持続可能な制度設計も可能と考える。または市による家賃補助制度も有効では	・市内で働き生活できる環境が整えば市内高校卒業生の流出抑制やUターン促進にも寄与できると期待できる ・市内に専門または大学等を新設させ、それをフラグシップとして区画整理を行えば自ずと商業施設が進出するのでは。学生や進出する商業施設の従事者等の人口増でホットスポットとなり、賃貸住宅、宿泊施設の増加が期待できる

(12) 農業施策座談会（４月中開催・二戸会場 74人参加）

【農林課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
【二戸会場】 ・楽しい農業・投資時間が短い農業 ・自分の子供に就農を進められるまち	・きゅうりは高単価であるが、きゅうり以外に選択肢がない。 ・就農のメリットを伝えるのが難しい。 ・鳥獣被害が多い。	・耕作者がいなくなった畑の管理。	・設備導入のための県補助の要件が厳しい。使いやすい補助が欲しい。 ・耕作放棄地や遊休農地が増えている。漆の植栽だけではなく有効な活用方法を検討してほしい。 ・市の重点作物の再考を。	・鳥獣被害が減れば農業を諦める人は減るのではないかな。
【浄法寺会場】	・高齢化、労働力不足が課題。繁忙期には手が回らなくなる。 ・遊休農地の増加。		・有機農業の支援に力を入れてほしい。 ・市の重点作物の再考を。 ・条件の悪い農地は残さず、使いやすい農地を残していく必要がある。	・クマ、イノシシ対策が急務であり、ハンター育成が必要である。 ・市職員が狩猟免許を取得すればいい。市役所職員がクマの罠を設置できる体制を整えてほしい。 ・有害鳥獣の駆除に係る補助金が高くなれば、駆除が進むのではないかな。

(13) 生産組織（にのへフルーツの里発信研究会）（4/16開催・４人参加）

【農林課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・果樹産地として安定生産が持続的に行われる農業環境	・鳥獣被害、特に鳥害が厳しい ・高温や病害虫による収量減		・鳥獣対策及び高温対策の強化 ・選果場の整備を支援してほしい	・ふるさと納税のフルーツは、税の使い道を「農業のため」にする ・市として特化したもの（強み）があればいい

(14) 若手生産者（6/8開催・4人参加）

【農林課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
	・農業者人口の減少。 ・ブランドが育ち切る前に諦める。様々な品目にチャレンジするが、加工が広がっていかない。	・気候の変動にあわせて、品種改良ではなく、品目を考える。	・農業者人口対策として、市外から人が集まってくるように、農業研修施設やコンシェルジュのように生活サポート組織がほしい。体験型農業も取り入れたい。 ・民間に横串を刺してブランド化の推進をしてほしい。 ・加工品を作るという旗振り。	・農業は、用語が分からない、電気・水などの確保が分からない等の壁にぶつかりやすい。
・産業が確立しているまち	・ブランド力が弱い。 ・農業はインフレに弱く、設備投資に踏み切れない。	・民間によるAIの積極的導入。 ・地産地消より、仙台・東京を視野に入れた経営を行う。	・人口減少対策のために産業の発展に力を入れて欲しい。 ・特産品に振り切る政策を。 ・機械は離農した人とマッチングできるようなシステムがあればいい。 ・誘致企業は、加工が得意な企業を選択するのもいいのでは。	・（研修施設について、現実的には品目の限定することとなる話題に対し）AIの導入により的確なアドバイスを受けられる時代になっているのではないかな。 ・県が行う産業分野に特化したメーリングリストで施策を知った。有効である。
			・放棄される農地は買っているができれば借りたい。管理する農地が増えていくので、設備導入の補助に力を入れてほしい。	
			・都会で生まれた人は田舎に興味があるので、説明会などを開催してほしい。	・経営規模に関わらず、商品は売れている印象であるが、規模が大きい方が儲かる。

(15) 生産組織（認定農業者協議会、雑穀生産者協議会、農業農村指導士会、産直ショップあっぴ川）（6/3開催・8人参加）

【農村

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
【認定農業者協議会】 ・チャレンジできる環境がある農業経営 ・子孫まで住みやすいまち ・経営力のある農家がいるまち ・農業でメシを食えるまち	・世代間のギャップが強いと感じる。 ・物流がなくて販売に限界を感じる。販売圏は東京までである。 ・家畜の糞尿の処理が難しい。	・地産地生（地元で生まれ育つ）の考え方を持つ。 ・経営目標を明確する。 ・視察はスキルアップに繋がるものを実施する。	・加工場が欲しい。生産だけではなく加工などの新しい分野にチャレンジできる支援が欲しい。 ・本気の経営者を政策の中心に置いてほしい。	・牛舎の経営規模拡大は、堆肥の処理量に比例する。農家へ配るのだけでは限界がある。 ・認定農業者でいるメリットが薄い。 ・地域おこし協力隊を活用して加工品を。
【雑穀生産者協議会】 ・山に愛着をもてるまち ・小さい芽が活かせる	・木の値段が低い。木材の活用がされていない。	・令和の販売の仕方を考える。二戸市の宝を活かして経済を回すのは「民間」である。 ・農家同士の連携をしていく	・共同選果場をしっかりと作ることが大事	・耕作放棄地対策はそばの作付が有効である。地域内循環が理想。
【農業農村指導士会】	・売り方がうまい生産者が少ない。		・新規就農した方を先輩生産者が指導するブラザー制度。	・4Hクラブで行っているラジオでの広報がやりたい。
【産直ショップあっぴ川】	・人口減少が一番の課題。		・「二戸の宝」で観光客を楽しませてほしい。	・法律への対応が大変で、追いつけない高齢の産直がやめていつている。

(16) 二戸地区土地改良区、二戸地方森林組合、新岩手農協（6/3開催・3人参加）

【農林課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
【二戸地区土地改良区】	・耕作者がいなくなる点。この数年で離農した方も多く、10年後には耕作者を確保するため、どのようにサポートするか。 ・水路の老朽化が進んでいる	・情報を共有する場、勉強をする場を自分たちで作る。	・耕作者の減少に対し、農地の集積が必要である。農地の集積は、法人等の組織で進めていくことに取り組みできるようにサポートしてほしい。 ・情報共有や勉強する場に地域のリーダーや認定農業者を混ぜて。	・（市民として）全部市に任せるのではなく、地域や組織の将来を見据えて農家が自発的に計画を立てられるよう、「サポートする立場」になってほしい。
【二戸地方森林組合】	・農地を引き受けられる組織や個人は、存在するが、限界がある。 ・山林の管理は、自分の山がどこにあるか分からない人がいる。	・地域が連携し、グループになり効率的に生産する	・基盤整備を進め、効率よく稼げる農地にしながら、機械導入の支援をしてほしい。 ・山づくりの計画も作っていかねばならない。	・地域によっては若手が育ってたり、基盤整備が済んでいる。そのような地域を重点的に考えていく必要がある。
【新岩手農協】	・酒米生産のように地元のものを地元で使う取り組みを継続させるには。 ・生産者で組織する団体は様々あるが、事務負担の大きさが、団体継続を阻害しているのではないか。			・（農業経営の効率化に関して）機械導入は県補助を活用することとなるが、採択までのハードルが高い。

5 建設整備部関係団体

(1) 二戸地区建築業組合 (6/4開催・6人参加)

【建設整備部】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
基本的な方針、施策は第2次総合計画を踏襲、継続しつつ…				
◆若年層の労働者が地域に定着し、技術の継承が途絶えないまち ◆新築やリフォームが促進され、活気ある住宅環境が維持されるまち ◆空き家が有効活用され、来訪者や移住者が滞在しやすい快適な住環境	◆労働力不足と技術継承の断絶（若年層・後継者の不在） ◆資材高騰による住宅着工数の減少と建築費用の増大 ◆空き家所有者の特定困難による利活用停滞 ◆駅周辺の商店の不在	◆建築・リフォームの専門的知識を活かした空き家利活用の提案・実施 ◆地域課題の現場の声（建築的視点）を市へ継続的に情報提供 ◆伝統技術の維持と人材育成への協力	◆資材高騰に対応した住宅建築への補助制度の創設・拡充 ◆空き家所有者情報の一元管理と円滑な情報照会窓口の設置 ◆税金未納家屋等の法的・行政的な活用策の検討 ◆観光資源（九戸城等）周辺への休憩所・おもてなし拠点整備	◆近隣自治体（田子町等）の成功事例を研究し、二戸市に合った空き家・移住促進策を取り入れてほしい ◆人口減少下において、いかに「減らさない」か、または「離れたくない・戻りたい」と思えるまちにするかという視点での街づくりを強く要望する ◆駅前機能の再考や、子育て世代以外にも対象を広げた住宅支援策の検討が必要

(2) 岩手県建築士会二戸支部 (6/5開催・7人参加)

【建設整備部】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
◆「安心・安全」を最大の強みとする、心ゆたかで自分らしい暮らしができるまち ◆若者やUターン者が自発的に集う、活気あるコミュニティの形成 ◆空き家や既存資産を有効活用した「二戸らしい」循環型住環境の確立 ◆広域交通網（新幹線駅）を活かしたベッドタウン・関係人口の拡大 ◆子供たちが集い、市外からも人が呼び込める「公園」や「スポーツ・教育環境」の充実	●厳しい財政状況と「投資的視点」の不足 ●法改正による住宅建築コストの高騰と住宅困窮者の流出懸念 ●生活利便性の低下とコンパクトシティ化の限界 ●「集いの場（公園・イベント）」の整備か所数や実施回数が他都市に比して少ない ●Uターン・移住者への具体的なインセンティブの情報発信不足	●空き家活用・リフォームによる新たな住まい方のモデル発信 ●民間主導のアイデア創出とコミュニティ形成のきっかけづくり ●居住環境やまちづくりに対する「市民協働」の事業化提案	●官民一体となり「地域経済の活性化を投資案件」として捉えた事業推進 ●Uターン・移住者誘致に向けた先進事例（群馬県等）の研究と制度拡充 ●新幹線駅の強みを活かした通勤・通学補助制度とベッドタウン化の推進 ●空き家対策・若者世帯誘致と連動した公営住宅政策の見直し ●固定資産税評価の見直し検討	●「心の安心」「人間味あふれる」まちを発信すべき ●人口減少、少子化社会に対応した特色づくり ●若者の「新たなニーズ」を捉えたフェスなどのイベント誘致

(3) 岩手県建設業協会二戸支部、二戸市建友会 (6/1開催・9人参加)

【建設課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁(課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
インフラ整備による地域産業の振興 ・基幹産業であるプロイラーや商業、工業などの産業の発展	・若者の都市部への流出 ・技術者の不足 ・労働の担い手不足と高齢化	・AIに代替できない業種であり、ICT技術の活用、労働環境の改善など、魅力ある業界への取り組み ・同業者間での協業や、異業種間での連携 ・特定技能制度などを活用した外国人材の戦力化 ・強い建設業の創出	・インフラの強化、整備の推進による安定した公共事業予算の確保 ・年間工事発注の平準化 ・地元業者が受注できる入札制度 ・国制度であるが、外国人材の受入・定着に係る体制整備などの市の取組支援 ・行政での技術者を率先した採用、育成の取り組み	・二戸地区に土木・建築や資格取得(教育)の場がない。地元であれば就職率も上がるのでは。 ・若年世代は、労働条件や職場環境が良くなければ就職とならない。 ・これまでは高速道路、新幹線、区画整理などの大型プロジェクトがあったが、現在はそれが見えないのが不安材料である。市町村単体ではなく、国、県が関わってのプロジェクトを持ってくるような動き、長期的に取り組む明るい道しるべがあればよい。 ・意見集約したものを総合計画で中身の充実したものとしていただき、建設業の道筋を行政側がどのように考えているのか示していただきたい。 ・二戸の建設業の社長さんたちの年齢が比較的若いのが、他の地域に比べ強みである。新しいものに取り組んだり、長期的なものの見方ができる。それを活かすような内容の総合計画としていただきたい。 ・建設関連だけではなく、全体の優先順位など、建設業の位置付けや10年の長期計画をつくるのだから、先がみえるような計画をつくっていただきたい。
産業振興と人口減少対策 ・建設業就業者数の維持 ・公共工事の安定	・人件費の上昇 ・人口減少しても道路の距離は変わらず、老朽化する			
災害に強いまちづくり ・水害や土砂災害の対応 ・除雪対応 ・建設業の組織力の強化	施設の対応 ・激甚化・頻発化する自然災害への対応			
				・県の総合評価について、資材調達や下請けを県内業者とした場合は加点の制度となった。県北地域は、青森県南部地域も経済圏であり関わりが深く、建設業の振興などの観点から、二戸市からも県に県境特有の事情などの働きかけなどを協力いただきたい。 ・福岡二戸は昔から交通の要所として発展してきたものである。奥州街道と鹿角街道の宿場、交通によって栄えてきた。金田一や浄法寺も発展の歴史がヒントとなるのではないかな。 ・二戸に魅力がないから若い者がいなくなる。二戸にこれあるからとどまっているという人も中にはいる。二戸市が考えて、二戸市にとどめられる魅力、方策を考えてほしい。

(4) 二戸市水道事業運営審議会 (2/3開催・6人参加)

【水道事業所・簡易水道課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁(課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
将来にわたって水道事業及び簡易水道事業が水道利用者に対して、安全で安心な水道水を安定的かつ持続的に供給できる経営状態を保ちたい。 【目標値(経営戦略より転記)】 目標年次は令和17年度 ・水道事業 有収率 78.3% 経常収支比率 95.2% ・簡易水道事業 有収率 76.8% 経常収支比率 100%	令和7年度末(令和8年3月)に経営戦略を策定したことにより、現在の経営条件のままでは、将来の経営見通しが大変厳しいことが改めて認識されました。 現在の経営条件のままでは、水道事業では令和11年度より収益的収支が赤字となる見込みです。簡易水道事業でも一般会計からの繰入規模が増大し続けます。	水道事業及び簡易水道事業の経営についてのチェック及び水道事業の経営に関する重要な事項についての調査審議を担います。	審議会の開催(経営戦略改定)を経て、審議会より、水道が市にとって重要なインフラであることを踏まえ、将来にわたって安全で安心な水道水の供給が持続できるような経営に取り組むことについての答申(要望)を受けました。	

6 浄法寺総合支所関係団体

(1) キッチンガーデン利用組合（書面開催）

【地域支援課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・元気なまち ・人がいるまち ・新しいことに挑戦できるまち	・働き口不足 ・人手不足 人材流出	10年後当団体の生産者は後期高齢者が8割弱となるため元気に生存しているかどうか…		魅力のある「宝」イメージを発信 市外への情報発信はもちろん、市内に「宝」のイメージを繰り返し刷り込み、市民の中でも「宝」の価値を高め前向きに活発なまちづくりができていければ

(2) 下藤農産物直売所組合（浄南ママ直）（書面開催）

【地域支援課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
若い人たちが働ける場所、遊べる場所がある	土地の有効活用		近隣市町村との連携	浄法寺町に商業施設を建てる

(3) 浄法寺賑わいづくり実行委員会（書面開催）

【地域支援課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
・地域の方々のみならず、地域外からの来場者であふれかえるイベントにグレードアップする。 ・アクティビティを中心としたイベント、もしくは地域ぐくりで運営を任される。	・ボランティアで動く人の数に限界を迎えている。 ・金銭的な運営の問題も追々出てくる。 ・仕事や生活が第一優先となると地域委活動者の優先順位も下がり声掛け、参加も難しい。	・人件費にしっかり目を向けること。 ・収入について計画を立てること。 ・団体の存在意義や目的など、核となることをしっかり話し合う必要がある。	・浄法寺エリアを未来的にどうしたいかビジョンを固め、共通認識の下で活動すること。 ・今後も予算の引き込みをお願いします。全国どこにいても企画に参加できるシステムを作り出したい。	エリアビジョン（各エリアの最終目標地点）を至急策定する。 漆や天台寺もそのビジョンのツールとなるように。 それが無ければすべてバラバラな取り組みになる。まずはそこから。

(4) 二戸市社会福祉協議会浄法寺支所（書面開催）

【地域支援課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
このまちに住んでいて良かった。と思えるまち （１）役割と居場所があるまち ・ 地域交流、世代間交流の推進 ・ 地域住民参加型イベントの推進 ・ 就労的活動の推進 ・ ボランティア活動の推進 ・ 気軽に立ち寄れるコミュニティスペースの推進 （２）頼れる場所・仲間、頼れる仕組みがあるまち ・ 隣近所で行う身近な見守り活動の推進（見守りサポーターの拡充） ・ 365 日 24 時間体制の相談窓口の運営及び必要に応じた対応 ・ 助け合いボランティアの推進（有償ボランティア） ・ 子ども預かりボランティアの推進（有償ボランティア） ・ いわて“おげんき”みまもりシステムの推進 （３）「移動の自由」が保障されているまち ・ 浄法寺版移動支援検討会（仮）の立ち上げ ・ 介護福祉施設の空き時間の送迎車両の活用検討 ・ 総合事業訪問型サービスの活用検討 （４）自分も浄法寺町の一員だ。という実感が持てるまち ・ 住民の意見を取り入れる機会の推進（座談会、ワークショップ等） ・ 総合計画や地域福祉計画等の策定に対し、住民が主体的に話し合うワークショップなどを行い、住民自身に「当事者」になってもらう仕掛けづくり	（１）人材の壁（支え手の不足、高齢化） 地域の自治組織や民生委員、ボランティアの多くが高齢化しており、新しい仕組みを立ち上げたところで、それを運用するマンパワーが少なくなっている。また、現役世代や若者は日々の生活や仕事で精一杯であり、地域活動に関わる時間的・心理的ハードルが高い。 （２）意識の壁（お客さん意識、自己責任論） 「福祉は行政や社協が提供するもの」という認識が強い一方、「困っているのは自己責任」「他人に迷惑をかけたくない」という過度な遠慮から SOS が表面化せず、孤立が深まるという二面性の壁がある。 （３）制度・財政の壁（縦割りと単年度予算の限界） 現場は「高齢者担当」「障害担当」のように縦割りであることが大半であり、包括的な対応に繋がりにくい。財政的な不安定さがあるなかで、なかなか本質的な経営体制の構築に一步踏み出せない。 （４）リスク管理の壁（責任論） 「活動中に万が一、体調が急変したら？」というリスクへの懸念から、関係者が萎縮し、せっかくのアイデアが「やらない理由・やれない理由」によって頓挫してしまうことがある。	（１）人材の壁に対して 活動を徹底的に明文化・細分化（タスク化）し誰もが関われる仕組みを作る。 ・ 多様なボランティア受け入れ（登録制度拡充）：元気な方が多いひとり暮らし高齢者などに地域を支える側に回ってもらう。 ・ 隙間時間のデザイン（柔軟な活動展開）：「週 1 回 15 分だけ近所の独居高齢者のゴミ出しボランティア」など参加しやすい活動パッケージを整備 ・ 企業（CSR）や学校との協働、連携：活動に参加しやすい動線作りを行う。 （２）意識の壁に対して 遠慮感や他人事感を崩すため、気軽に頼める仕組みを整える。 ・ 有償ボランティアの推進：支援を「無償の施し」ではなく、リスペクト（対価）がある関係に変える。 ・ 住民を巻き込んだ作戦会議の開催：「5 年後、10 年後、私たちの買い物はどうなる？」というようなリアルな危機感をテーマにした対話を地域に対して行う。 （３）制度・財政の壁に対して 社協の生々しい「現場のリアルな声」を通訳して必要とされている地域の声をタイムリーに届ける。 （４）リスク管理の壁に対して ・ ルールの明文化：活動のガイドライン作成、ボランティア保険（全社協）加入等の体制整備	（１）単年度ではなく中長期的な視点での実施 市の独自予算や重層的支援体制整備事業などを活用し、持続可能な事業運営基盤を担保いただきたい。 （２）行政主導の協議体の設置 関係部局が横の繋がりをもって検討していくような場が必要（既存の地域ケア会議や第 1 層協議体をベースにするなど）。 （３）個人情報保護に関するルールづくり 支援を進めるうえでのネックが個人情報。情報の取り扱いに関するガイドライン（条例や協定）的なものの策定を検討いただきたい。 （４）行政による「公認（お墨付き）」の発信 市の広報や市長メッセージなどで「この取り組みは、市と協働で推進している取り組み」といったような、アナウンス（お墨付きの付与）を期待する。	・ 社協はこうした『住民が主役となる仕組み』を構築する担い手であると考えています。 ・ 現在、二戸市から受託している事業の大半は、地域住民から「これからも継続的に実施」されることが望まれているものと考えています。 一方、改廃があってもよい事業も今後でくるものと思いますので、適宜情報共有できればと思います。 ・ ここまで記載してきた内容の多くは既に走り出している取り組みです。今後も目まぐるしく変化する社会情勢の中にあっても、市にはこれらの活動を支える財政・制度的バックアップをお願いしたいと考えています。

(5) 二戸市農村青年クラブ連絡協議会 (4/28開催・4人参加)

【地域支援課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁(課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
【誰もが安心・誰もが活躍できるまち】 【子育てしながらでもスムーズに働ける環境があるまち】	・地域の課題を自分事として捉えている人が居ない	・農業者との繋がりを構築し、コミュニケーションを活発にとれる場をつくること	・浄法寺保育所は絶対に残す ・農業の六次産業化を支援し、雇用を生み出す取り組み ・漆に注力するなら、漆精製から販売まで一貫して市で行えるように出来たら良い ・漆を半導体の塗料にするとか、常に需要のある状態を作り出す ・浄法寺運動公園は熊の関係で子どもを遊ばせることが難しいので、新しい公園を作って欲しい ・熊・イノシシ対策に力を入れ、ハンター育成と駆除後の処理施設まで考えて欲しい	・空き家をそのままにしてはいけない ・まちづくりに対して、特定の人だけに負担をかけない
	・今のまちづくりは金田一地区に偏っていて、どんどん浄法寺が寂しくなっている気がする		・総合計画は、策定して終わりではなく、進捗管理のスキームまで構築が必要で、1年毎ではなく3ヶ月毎とかの進捗管理が必要 ・総合計画は市役所がやるのではなく市民がやるもので、市役所は調整役として取り組んで欲しい	
	・二戸市の難しい課題については、全てにおいて「未婚」と「子どもを産まない・生まれない」が原因になっていると思う		・二戸市内の様々な業種の企業で委員会のようなものを組織し、まちづくりに対する意見を聴取することで、視野の広い意見が出るのではないかな	
			・二戸市公式LINEの登録率向上を目指し、市政情報を末端まで届けて欲しい ・消火困難区域(水源が遠いなど)のエリアマップを共有して欲しい	

(6) 寂聴記念館ボランティアの会、天台寺ボランティアガイドの会 (4/30開催・11人参加)

【地域支援課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
天台寺や瀬戸内寂聴氏を世界に誇れる宝として活用していく。	・ 来客数の減少 ・ 天台寺までの道路が悪い	・ 徳島の文学書道館との連携強化	・ 徳島文学書道館の視察、連携 ・ 記念館の定期的な展示替え ・ 大型バスでも通れる道路の整備	・ 寄贈された寂聴氏の蔵書も何かに活用した方がよい。 ・ 税収減というわりに、市職員は二戸市に住んでなかったり離れていたりする。市職員は市内に居住するようにしてはどうか。
	・ せっかく天台寺や記念館に足を運んでもらっても、お金を落としてもらえるものが充実していない		・ 飲食店の充実 ・ 天台寺や瀬戸内寂聴氏"らしい"土産物の充実 ・ 手頃な価格の漆器の考案	・ 二戸市の労働人口は減少しているが、最近は退職後も働く意欲のある人が多い。ボランティアガイドとしての育成など、退職後の活用をはかる施策をしてほしい。あわせて、健康年齢の充実にも働きかけできるとよい。
	・ 若い世代の興味関心が薄い	・ デジタルでの発信等	・ アニメ、キャラクター、マンホール等、気軽に訪れやすいきっかけづくり ・ それを入口として歴史等に触れてもらえるような仕組みづくり ・ 小学校等で行っている周知活動をもっと深堀り	・ 九戸城やうるし資料館等に専用の学芸員を配置するべき。 ・ 聴き取りをしても金がないからと実現しないなら、やってもしょうがないという気持ちになる。 ・ 無人化やIT等は積極的に取り入れた方がよい。
				・ 御返地の防災センターは木造だから逃げ込むのに不安。1階だけでもコンクリート造にして欲しかった。名前だけでなく、目的に合ったものをつくってほしい。 ・ 糠部三十三力所観音巡礼も青森県等と連携して活用してほしい。

(7) 二戸市葉たばこ振興協議会 (5/12開催・3人参加)

【地域支援課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
【若者が「帰りやすい・住みやすい」環境の実現】 ～10年後も子供や孫の世代が、地元へ戻ることを選択肢に入れられるような、生活基盤が整ったまち～	【帰ってきたいと思えない】 ・「子育て世代の負担」 学校統廃合により、スクールバス以外の時間帯には親が送迎しなければならないなど、負担が増大している。 ・「稼ぐ場所」の不足 就職先が少なく、会社員としての安定（休日や福利厚生）を求める若者が流出している。			
【農業で幸せになれるまち】 親世代が築いた設備や機械といった「資産」を有効に活用し、次世代がしっかりとした収益（飯が食える分）を確保できる地盤や新規就農しやすい環境がある	【資材高騰による収益性の圧迫】 肥料、燃油、資材などの価格高騰により、売上があっても手元に残る金額が減り、次世代へ「農業は儲かる」と言い切れず、子どもに継いでほしいと言えない。	【初期投資負担の軽減と資産継承の促進】 親世代の設備をスムーズに引き継げるよう、若手への技術指導や就農支援、意欲醸成を図る。	【経済循環を意識した補助の検討】 補助金によって農家の手取りが増え、その利益が税金や消費として市に還元されるような、互恵的な仕組みを拡大する。	まずは地元の耕作者が1,000円でも多く利益を残せるよう、柔軟な補助事業の展開してほしい。

(8) 浄安森林組合、天台寺保存会、二戸市商工会、二戸市社会福祉協議会浄法寺支所、浄法寺町牧野組合連合会（6/3開催・9人参加）

【地域支援】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
【社会福祉協議会浄法寺支所】 ・今地域にいる住民（特に高齢者や社会的孤立者）が、誰一人取り残されず「楽しく暮らせる」まちづくり。 ・日常生活で困りごとが発生した際、お互いに自然と助け合える、助けてもらえる強固な『コミュニティ・仕組み』があるまち。 ・年齢や身体状況に関わらず、すべての住民の「移動の自由」がしっかりと確保されているまち。 ・全住民に何らかの「役割」や社会的な「居場所」が保障されている姿。	・引きこもり当事者や、年々増加する一人暮らし高齢者の「居場所」が不足しており、地域社会での孤立が進んでいること。 ・移動手段の確保に向けた、『行政・住民・民間』を交えた具体的な「交通インフラ協議会」の設置や議論がまだ不十分であること。	・「有償ボランティア」等の仕組みを積極的に導入、拡大し、インフォーマルな相互扶助の基盤を広げること。 ・住民一人ひとりに対して、他人事ではなく「地域運営に自ら参画する」という意識（地域参画意識）を醸成していくこと。 ・健康寿命の延伸や予防福祉を通じて、将来的な要介護者およびそれを支える支援者そのものを減らしていく、根本的な地域づくり。	・単年度の予算や計画に縛られるのではなく、5年、10年といった「長期的なスパン」を見据えたブレない計画実行。 ・行政特有の「縦割り組織」の弊害を徹底して撤廃し、『福祉・交通・建設』などが包括的に『連携・横断』できる協議の場（行政窓口やプラットフォーム）を設置すること。 ・社会福祉協議会が現場で展開している先進的、草の根的な取り組みに、行政のお墨付きをもらいたい。※社協が勝手にやってるんでしょ？という感じで協力が得られない場合がある。	
【浄法寺町牧野組合連合会】 ・畜産業、酪農業の基盤が安定し、次世代へ持続的に継承できる経営環境が確立されている姿。	・担い手不足や高齢化による牛の飼養頭数の深刻な減少。 ・資材高騰の波を受け、草地管理にかかる肥料代や飼料費が激しく高騰しており、畜産農家の経営、収入確保が極めて厳しくなっていること。	・牧野の維持管理の効率化などを実施。	・牧野の広大な土地を活用し、「大型風力発電事業」をもっと誘致してほしい。 ・仮に風力発電が牧野に導入されれば、地代や協力金等の「新たな原資・収入」が確保でき、それを原資として牧野、畜産基盤そのものが自立して成り立っていく可能性が極めて高いため、行政主導での強いトップセールスや誘致活動を期待する。	
【全体を通じて出された意見】	・道の駅の整備について：現在、全体の方向性やコンセプトが定まりきっていない状況にあり、早期のビジョン明確化が必要である。 ・観光、移動の利便性向上：「滴生舎」をはじめ、観光客やドライバーが気軽にトイレ休憩や立ち寄りができる、快適な休憩場所・中継拠点のインフラ整備が求められる。 ・行政、民間のマインドセット：時代の転換期において、官民双方が「失敗を恐れず、思い切った先進的な取り組み」へ果敢にチャレンジしていく姿勢（前例踏襲からの脱却）が今まさに必要である。			

7 教育部関係団体

(1) 二戸市スポーツ協会 (6/9開催・2人参加)

【生涯学習課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
新幹線や電車等、交通の強みを活かしたベッドタウン	駅やインターなどの交通施設付近の有効活用が不十分 (交通の便は悪くないが、主要施設が駅やインターから遠い上に点在しており、行きにくい。新幹線も電車もあるのに、車がないとにもできない状態)	実現した後の話になるが、ベッドタウンとして仕事以外の時間を過ごす住民に向けた、余暇の時間にやることを選択肢の創出	カシオペア地域の各地にインターがあることを活かした広域拠点作り (体育施設など、何かの折にカシオペア地域の市民が集まりやすい環境を作る)	カーリングなど、一瞬だけ話が出て、複数課を行き来する中で進展がなくなったものもある。様々なものに手あたり次第手を付けるのではなく、中途半端で終わらないよう、一時の状況に流されず計画的に行ってほしい
			・施設の集約、整備 ・物置としてしか利用していない学校やグラウンドの取り壊しによる土地としての利用価値の再創出 ・利用している施設の修繕による利用の度合いと費用対効果の再検討 ・今後新設する施設等の立地検討（類似の施設を集め、一帯をそのジャンルのエリアとして売り出す工場を国道などの周辺に設置できるよう空き地などを整備する等）	

(2) 二戸市芸術文化協会、二戸市文化振興協会 (6/10開催・3人参加)

【生涯学習課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
地域の垣根なく誰もが文化に触れ、興味を持った活動に取り組むことができるまち	文化に触れ、興味を持ってもらうための機会が不十分。（イベント等を開催していても、各々主催がばらばらに動いているため情報発信が行き届かなかったり、類似の事業が繋がらなかったりしている）	子ども向け体験型イベントや、街中の空き家やシャッターを利用したアート展示など、現状を有効活用した文化活動の実施	文化活動を行うゆとりができるような、経済や生活基盤の安定化 (経済や生活の基盤が安定しなければ、文化活動にまで手が伸ばせない)	二戸市だけでできる事業には限界があるため、近隣市町村とも協力したまちづくりを検討してほしい

	子どもが活動に興味を持ったとしても、送迎などで親の協力が不可欠であり、負担が大きいため手が出せないといったことがある。	大人が楽しんで活動できる団体への活動協力 (大人が全力で楽しんで活動をしている様子もまちの活性化に繋がる。その様子が子どもや次世代を担う若者が興味をもつきっかけにもなる)	道の駅など、外から人が入ってきやすい環境づくり	少子化対策など、ない部分に手を付けるより、今あるもの、現状を有効活用することにも目を向け、ピックアップして盛り上げてほしい
				地域おこし協力隊をもっと盛り上げ、二戸市に目的をもって来てくれる人を増やしたい
				同じ施設でもフロアによって窓口の課が異なっていたり、窓口が"市"か"施設"かがそれぞれの施設によって違ったりと、連絡が不便

(3) 二戸市郷土芸能保存団体連絡協議会 (5/20開催・12人参加)

【文化財課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁 (課題)	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
	・後継者がいない ・二戸市民なのに二戸音頭もナニヤトヤラも習わないので踊れない	・児童クラブ等で神楽を教えている ・学校が統合されたあと郷土芸能の棲み分けなどをしたほうがよい	・市としても児童クラブなどで郷土芸能にふれあう活動をしてほしいのでは - 場所を貸してくれるなど ・子どもに二戸音頭など教える機会を作る	獣害がひどい、認可された解体場がない。広域で話をしてほしい。

(4) 二戸市観光ツーリズム協会（九戸城ガイド）（6/1開催・2人参加）

【文化財課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
ガイドハウス・ガイド事業をなくしたくない、ガイドを増やしたい	ガイドが高齢になってきている ガイドを始める人が少ない	マニュアル作成 ガイド養成講座など養成するシステムを作りたい 活動をPRしたい	文化財課ともっと関わり、早く情報がほしい ガイドに対して情報提示のレベルをあげる	裁判所後に資料館などができた場合、ガイドハウス開館業務の人はどうなるのか、ガイド活動のためにどうなるのか
二戸市のファンを増やしたい		ガイドをつけない来場者にQRコードなどで説明するための方策	インターネット等で九戸城の情報にたどり着きやすくしてほしい 二戸駅に降りた人にもっと九戸城に誘導する方法、アピールがほしい	

(5) 九戸城を活かす会（6/9開催・2人参加）

【文化財課】

①目指すまちの姿	②実現のための壁（課題）	③団体としてできること	④市への期待・連携してできること	⑤その他意見・提言
二戸市の博物館設置 発掘の継続 調査研究の継続	人材の不足(学芸員・発掘員・調査員)	人材確保(学芸員・発掘員・調査員) 他市町村等との連携	市立博物館の設置 発掘の継続 調査研究の継続	浄法寺にも九戸城関連の資料があるのではと思っている